

鹿島市総合教育戦略会議（第12回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成28年11月4日（金）15時27分から17時05分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、橋村総務部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、事務局（総務課職員 江頭、中島、吉田）
- ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、藤家教育総務課課長補佐

- ・外部関係 なし
- ・傍聴 なし

4 協議または調整した事項（確認事項含む。）

- (1) 第11回鹿島市総合教育戦略会議（H28.6.6）の議事録について
 - ・議事録素案の内容を確認
- (2) 教職員の業務量について
 - 5 出席者の発言のとおり
- (3) 道徳としつけについて
 - 5 出席者の発言のとおり
- (4) 教育委員の人数について
 - 5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 先週、東京で田澤義鋪記念会に出席いたしました。福島県の桜の聖母学院の三瓶千香子さんという人に1時間ほど記念公演をしていただきましたが、田澤さんの思い、心、教育の基礎になっているもの、これが実は大学教育で非常に使えると。ひとつは、大学教育で非常にこの方の考え方は使えるということです。今の子どもたちの中に一番持っていてほしい奉仕の精神、実践する力というのが教

えの中にあり、このふたつが今の子どもたちは弱いのではないかと。福島でこの話が注目され始めたのは大震災以降で、近年の子どもたちは、口は勝っているけど手足が動かないというのがどこも悩みらしいです。ところが、田澤さんはまったく真逆のことを言っておられます。それからもうひとつは、青年団を作りなさいということです。若者を集めて昔の青年団作りなさいという話ではありません。昔の青年団のようなものではなくて、今の青年団は大学生です。今の大学生は、勉強は一生懸命するが、中には大学に入ることが目的になってしまって、入ってからの自分の人生の目標が見つかっていないと。それを植えつけたのが田澤さんで、福島では、みんなと一緒にになって議論して、実践して、合宿してというのを実際にやっているようです。福島には生きた田澤精神があり、公民館をもっと使えばいいですよ、というヒントをいただきました。やっぱり外と意見を交換したり、外の考え方を入れたりするのも大事だなと思って帰ってきた次第です。よろしくをお願いします。

3 確認事項

第11回鹿島市総合教育戦略会議（H28.6.6）の議事録について
議事録（素案）の内容確認

4 協議事項（教育委員会の報告を兼ねる）

(1) 教職員の業務量について

（染川教育次長 教職員の業務量について教育委員会の協議内容報告）

多忙化について、7月1日の定例教育委員会において協議を行った。文部科学省教員勤務実態調査で平成18年度と昭和41年度とを比較した資料があり、議論のたたき台とした。生徒指導、補習、部活、事務的な業務等については平成18年度の方が増えている。逆に、平成18年度が減っている業務は、主なものとしては自主研修がある。結果的に全体を平均すると、残業時間は昭和41年時点では月8時間だったものが、平成18年度においては月約34時間になっている。

委員の主な発言内容

- ・昔と比較して事務的業務が増加している、調査物が多い。
- ・学校だよりも昔は無かったが、今は月何回も発行している。
- ・事務のボリュームが増加しており、レベルも高くなってきている。
- ・出張も増加しており、事務職や教員の定数を増やすなどの対策も必要。

事務局としては、業務量増加への対策として、集金などの業務を事務長へ移管するなど徐々に改善していると回答した。

- ・大変なのは分かるが、普通のサラリーマンの残業時間と比べたらどうなのか。
- ・市の職員で月平均15時間。
- ・市の職員並みにするにはどこが一番削れるか。人を増やすのではなく仕事を減らすしかない。
- ・19年1月の30人以上の事業所規模の月間所定外労働時間で12.9時間。
- ・報告書をやめさせればいい。
- ・いらぬ仕事がなかなか無い。
- ・事務職員に移管できるものはなるべくするべき。事務的な業務が多い。残念ながら本業は増えていない。
- ・パソコンでの事務が増えているので、パソコンが得意な事務職員がいれば。
- ・パソコンを導入したことで事務量が増えたのか。事務量を合理化するために開発された機械のはずだが。
- ・便利になったことで、調査項目が増えた。
- ・逆に端的に言うと、調査官を置けばいい。
- ・パソコンで書くと、同じ大きさの欄でも手書きより多く書けるため、求められる記入量が増加している。
- ・データは引き出しやすくなって資料作りは簡単にできるようになった。
- ・それは先生特有のことか、市役所でもか。
- ・実際事務量は増えたように感じる。資料は実際に増えた。
- ・すぐに簡単にできるだろうということで、報告を受ける側の要求レベルが上がっており、作成する側も念入りにしすぎている。
- ・パソコン操作が下手だから時間がかかっているということも考えられる。書記官のような機械関係のプロを育成しないといけないかもしれない。
- ・小さい学校に事務職員が1人増えたらだいぶ違うが、先生でないとできない事務もある。
- ・下地は先生が作って、体裁を事務官が整えるのはどうか。
- ・文書作るとなると結局自分で全てすることになる。特に教材作りなどは、自分で作らないと使いにくくなることもある。
- ・今は昔と違ってトイレに行けない、暇が無い。特別支援学級に行く前の段階の子など、休み時間でも目を離せない子どもが増えている。
- ・そういう現状から、ある学校で10月から支援員さんを1人増やした。出張で人手が足りないときはものすごく大変。
- ・出張は増えたのか。出張は行かないといけないから出張するもので、情報の発達で現地に行かなくてもよくなったのでは。

- ・一時期増えたが、その後少し減った。今は ICT 関係の研修会が増加している。
- ・便利になったがゆえに、派生する仕事が増えている、今は ICT 教育。
- ・それが子どもたちのためになっていればいいが、先生のために開発されたのか。
- ・子どもたちの理解力を高めるため、子どもたちと接する時間を増やすため。
- ・子どもたちはそれに応じて心も体も成長したり充実したりしたのか。
- ・それはまだ時間がかかる。
- ・片方では、簡単に分かるような方法が開発されているのに、正解率が落ちるなどしている。もし昔は定着していたが今は頭の中に入っていないというなら過剰投資。
- ・スタイルは違うが先生が子どもに教えるという基本は変わらないのでは。
- ・昔は黒板を見ながらとにかく書いていたが、今は理科ノートのように左に問題欄があって右は自由に書けるといったものもあるのは変化。
- ・それだけ変化したなら、理解度は昔よりも良いのか。比較できないならやめておいた方がいい。
- ・案外理解はしているが、定着となるとまた違う。繰り返し読んだり書いたりすることで定着するが、そういう家庭での学習時間が少ない。だから昔より良くなっているかどうか分からない。
- ・今の学習時間ではもっと悪くなっていたかもしれない。家庭学習時間が1時間に満たない子どもがたしか6割ぐらい。
- ・昔は模擬テストのために否が応でも勉強していたし、順位が出ていた。しかし詰め込みなどの弊害があって少し変わってきた。
- ・今はテレビやゲームで、それが無くなったらテストの成績だけを考えたら上がると思う。
- ・秋田や福井ではゲーム等にある程度の制限をかけたたり、親や地域で取り組んだりというようなことはあると思う。
- ・鹿島でも9時以降はスマホを制限するような決まりを作った。
- ・秋田でできていることは鹿島でもできないといけない。
- ・自主研修が減っているのが気になる。減らざるを得ないのかもしれない。
- ・事務的な業務や生徒指導の時間が勤務時間内で増えているため、自主研修が圧迫されているのでは。
- ・昔は何をしてもいい、自宅でも研修できる自主研修があった。
- ・自主研修をしたら、できる時間があるということで多忙感が減るのでは。むしろ楽しみになるのではないか。

(2) 道徳としつけについて

(染川教育次長 道徳としつけについて教育委員会の協議内容報告)

難しい問題でもあるため、具体的な方策やまとめはできなかった。

委員の主な発言内容

- ・公共の場で子どもが騒いでいても親は子どもに無関心で注意しないことがある。親が自分の子ども時代に注意を受けるしつけをされてなかったのではないか。
- ・第三者が他人の子どもに注意するには勇気がいる。
- ・何でも学校任せはどうなのか。昔は地域の中でしつけや教育ができていた。
- ・しつけと体罰の線引きは難しい、なぜ叱られたのか納得させる必要があるのではないか。
- ・しつけの悩みは家族構成で異なるのではないか。
- ・政策的な施策が必要だが、この問題は家庭で行うものなのか、教育委員会が取り組むものなのか難しい。保育園、学校、家庭等との連携が必要になってくる。
- ・ここまでしつけてほしいという指針があれば。しつけのチェックシートを作成してはどうか。鹿島市子育て五つの願いというある程度の指針はすでにある、PRしてはどうか。
- ・しつけも教育もそうだが、どのレベルをターゲットにするのかが非常に難しい。
- ・今は親でも先生に全てお任せしますという人もいれば、そうでない場合もある。非常に多様化している。
- ・しつけは学校教育ですべきなのか、広く捉えて社会教育ですべきなのか線引きが難しい。
- ・中体連などで団体競技となると、学校ごとにしつけの差があり、集合時などにまとまらない。
- ・子育ては中学校に上がってからが一番大変だった。3つの学校が一緒になって不安定に。
- ・中1ショックとカルチャーショックがある。それを避けるために最初から一緒となれば統合問題になるが、それに伴う問題が余計に吹き出てくるかもしれない。
- ・その年代は価値観が多様化してきて、しつけや社会通念とそぐわない部分が本人の中に芽生えてくる気がする。それが著しく違ったときにしつけの部分にすぐ現れる。
- ・少年の夢発表大会は小学校6年生が大半だったが、大変自己が確立している。
- ・そういう子どもたちがリーダーになって、みんながまとまっていくと良いが、みんなトップクラスのよその学校に行ってしまうという悩みもあっている。
- ・ということは、しつけも学力のうち。
- ・価値観の多様化によって勉強以外に力を注いだ結果、世間から見たらしつけができていないとか考え方がおかしいとか言われてしまう形になることもあるだろう。

- ・改善方法はどうか、しつけ担当の先生を増やすのか。
- ・学校でしつけを扱うのはどうかと思う。
- ・そうすると授業時間外にしつけ教室をしないといけないが、本人をしつけるのか、その親に対しての教室にするのか。
- ・親については、私たち自身も反省している。ある意味でそういった親を育ててしまったと。
- ・各家庭でしつけの差がある。以前はちょっと違っていても地域の中で修正できていた。今はそれがなくて、良いところはものすごく良い。
- ・親世代が子どもの頃は、個性を伸ばす教育が流行っていて、殻から飛び出した人たちが今の子どもたちに自分の考え方を伝えているのでは。
- ・親が遅くまで働いていて、子どもと一緒にいる時間が少なくなったこともしつけに影響があるのでは。祖父母と同居する家庭は、親がいなくても祖父母が教えてくれるからしつけの面では良い。
- ・その代わりにするのが放課後児童クラブ。そこによそのおじいちゃんおばあちゃんを投入したらいい。

(3) 教育委員の人数について

(染川教育次長 教育委員の人数について教育委員会の協議内容報告)

平成28年9月1日教育委員会の中で協議を行った。参考として地方教育行政の組織及び運営に関する法律の抜粋と、県内教育委員会委員の状況について説明した。教育委員の定数は法で「教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって組織する」と定められており、新制度になったものと本日の構成は異なる。鹿島市は現在経過措置中であるため、改正前の例による委員構成になっている。江島教育長の任期が平成28年の12月24日までで、経過措置中ということで、平成20年4月1日に一部改正された規定「教育委員会は、5人の委員をもって組織する。」に今は基づいている。平成20年4月1日から、条例で定めれば市では6人以上でもいいという規定になった。県内教育委員の状況としては、上峰町が旧制度から新制度に移行する際に、3名から9名に増えている。武雄市は旧制度時代からすでに10名だった。他の自治体は、ほぼ法律上の本則に基づき定数5名のところが多い。教育委員会という組織は、審議会とは異なり、施策の意思決定を行う執行機関という法的な位置づけがなされている。そのため、定数を増やして多様性を図るのか、5人のままで執行機関の機能性を保つのかという議論になる。

委員の主な発言内容

- ・鹿島市には6つの行政区があるので6人という考え方もあるが、予算面の問題がある。小学校区だと7人という考えもある。
- ・誰でもなれるわけではないので、人選面で難しくなるのでは。
- ・そもそも増やす必要があるのか。増やすには理由が必要。

議題には無いが、前回の総合戦略会議の中で課題として出てきた教育委員会のPRについて、ホームページを今充実させているということで回答した。

- ・鹿島の定数は全て地方教育行政法に基づく。定数を変更するときは条例で規定する。
- ・委員には多様性が必要。
- ・法律の中で、「任命に当たっては、委員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならない。」と書いてある。
- ・常勤の公務員や他の行政機関の委員との兼職禁止はある。
- ・区長との兼職については、市の嘱託員だが、兼業禁止のところには当たらないといったようなことを聞いた覚えがある。
- ・かつてしたことがあるというのは欠格事由にならないのか。
- ・兼職や欠落事項について整理が必要。
- ・増やすにしても市民が納得できる理由が必要。今運営がギリギリかと聞かれるとそうではない。

6 その他

- ・(1)と(2)は方向性を出すのが難しい。
- ・多忙化について、生徒指導の部分を学校だけでなく地域や家庭と連携するようになれば、大綱の具体的な施策に取り込めるのでは。

橋村総務部長 次回は2日で調整をとらせていただくということでよろしくお願ひします。まずもって業務量、あるいは道徳としつけということで議論が尽くせないところがありますので、そこを含めて次回を予定いたします。もし何か、思いつきとかいろんなご意見があれば事務局に申し付けていただければ、それをまたたたき台として使いたいと思います。どうも今日のご苦労様でした。

(17:05)

・次回開催日 平成28年12月2日(金) 13:30

内容「継続協議」